

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市八本松児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》	
	・ 令和3年度 16,592人（前年度比 133.5%） ・ 令和2年度 12,432人 ・ 令和元年度 19,668人	
5 収支の状況	《事業》	
	・ 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	()は前年度決算額
6 利用者の声	《費用》	
	・ 指定管理者に支払った費用 44,367千円 (34,136千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
7 収入の状況	《収入》	
	・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
8 実施状況	《実施状況》 ・ 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認するほかに個人でも年4回のセルフチェックも行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	リーフレットや児童館だより、初めての利用者を対象とした冊子の発行、保護者からの要望を受けてSNSをはじめ、ブログの更新や利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。さらに地域に向けて取り組んだ「どんぐりマーケット」では、子ども達が企画運営に参加しており、子ども達のやりたいことを大切に支援している。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	19/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘）による自己評価》
<p>仙台市の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針に沿い、『地域でつながる・あそびでつながる児童館』を念頭に置いてコロナ禍でも利用者に寄り添った居場所となれるよう取り組んだ。</p> <p><健全育成事業></p> <p>地域に開かれた児童館として利用者ニーズに応じた関わり方を意識し、コロナで中止ではなくできることをできる限り取り組んだ。中高生世代の居場所づくり【エイトベース】を助成金を活用して実施。中高生世代からニーズを集めて配置することで利用しやすく、不登校気味の生徒がエイトベースをきっかけとして学校に足が向くようになったことが大きな成果となった。</p> <p><子育て支援事業></p> <p>児童館周辺で職員が見回り・声掛けの際に不安な気持ちを聞き応えることをしてきた。児童館が再開した後も、その繋がりが継続し安心して子育てができる環境づくりや、妊娠期支援事業【はぐはぐ】を実施。出産を控えたプレママ・パパに対して、助産師からの講話や、育児体験を通して出産後の不安を少しでも取り除けるよう取り組むことができた。</p> <p><地域交流事業></p> <p>どんぐりマーケットでは、地域包括支援センターや中学校などの団体の他、個人出品が昨年度よりも多くなり沢山の来場者に来ていただいた。地域としても楽しみにしてもらえる事業となった。また、厚生労働省の緊急時における児童館の活動・モデル事業として防災プロジェクトを実施。町内会をはじめ社協や中学校から協力を得て実施。地域で防災について体験を通して深めることができた。</p> <p><放課後健全育成事業></p> <p>参画のはしごを意識し、放課後の時間が充実した居場所であり子どもの声をカタチにできる子どもを真ん中にした事業を展開した。子どもの良いところを探して声掛けする他、個を認め自信を持って何事にも取り組めるよう支援し、保護者へも伝えてきた。また、聴覚障害児を受け入れることで、職員が手話を習得し橋渡しできるよう支援をしてきた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係るまん延防止重点措置や宮城県・仙台市緊急事態宣言、宮城県緊急特別措置等の発令があったが、児童クラブに関しては、年間通して受け入れを行った。この間、小学生や乳幼児親子の自由来館などは一部は休止としていたが、解除後も小学生の自由来館は土曜日のみ、乳幼児親子は平日午前のみと制限のある再開となった。年間を通して、感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力をしながらの児童館運営だった。</p> <p>児童健全育成事業においては、新たに中高生世代を対象とした「∞（エイト）ペース」を助成金を活用して立ち上げた。立ち上げに当たり、児童館前の戸外に中高生向けにテーブルや本を用意して立ち寄りやすい雰囲気を作り、意見を求めた。子ども達の意見を実現化しながら環境を整えることで自己有用感が育まれると共に居心地の良さにもつながっており、地域における中高生世代の居場所や活動の場として利用者数も増えており評価できる。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、助産師や先輩ママの協力を得ながら、妊娠期の支援事業として「はぐはぐ」を実施した。実際におむつ交換をしたり産後に利用できる施設を知り、職員や地域の方・参加者同士と交流ができるこの取り組みは、安心して子育てができる環境作りとなり子育て支援の拠点としての役割を果たしている。</p> <p>地域交流推進事業においては、恒例の「どんぐりマーケット」を継続して実施した。令和3年度は3日間の開催だったが、地域住民や乳幼児・児童親子、近隣の保育施設などの子ども達が来館して昨年を上回る参加者となった。中学生や近隣の方の出品もあり地域に根差した活動となっている。児童館便りを八本松小学校区内の町内会で回覧するなど児童館事業の認知向上に努めており、児童館が中心となって地域が一体となって子どもの育ちを支えている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、本革工作や自分新聞の作成など子どもの意見を取り入れた活動を行っている。また、定期的に子どもの生活や遊びについて投げかけ、投票形式で意見を集約しその後に話し合いを設けて運営に生かすなど子どもの意見が実現できる支援を行い、自主性を育みながら児童館が子どもにとって「居たい場所」となるよう努めている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課